

障害者にバリアのない社会を目指して

バリアフリーのススメ

福島智氏は9歳で失明。高校生であった18歳の時に聴力も失い、目が見えず、耳も聞こえない全盲ろう者となる。しかし、福島氏は大学進学を目指すことを決意。当時盲ろう者への福祉支援は皆無に等しい状態であったが、在学していた筑波大学附属盲学校(現・筑波大学附属視覚特別支援学校)やボランティアの協力により、「福島智君とともに歩む会」が設立され、福島氏の大学進学を支援した。1983年東京都立大学(現・首都大学東京)に合格し、全盲ろう者として日本で初めての大学生となった。福島智君とともに歩む会はその後も活動を広げ、発展。1991年3月に厚生省現・厚生労働省から認可を受ける、社会福祉法人「全国盲ろう者協会」の母体となり、これによって日本の盲ろう者福祉が本格的に開始されることになった。福島氏が大学を目指すことによって切り開かれた日本の盲ろう者福祉活動は現在、全国45都道府県に支援組織が設立されるに至り、全都道府県において盲ろう者のための通訳・介助員の養成と派遣制度が実施されるようになるまで成長した。また、福島氏の母親が考案した指点字は、現在盲ろう者のコミュニケーション手段として活用されている。

福島氏は大学卒業後、大学院へ進み、研究者として障害学を専攻。日本初の全盲ろう者の助教授として、金沢大学入働務後、2008年には全盲ろう者として日本初の博士号を授与された。現在は東京大

学先端科学技術研究センターのバリアフリー分野の教授として教鞭をとり、政府や民間企業のバリアフリープロジェクトのリーダーとして活躍しているだけでなく、「全国盲ろう者協会」の理事をはじめ、多くの盲ろう者支援団体に積極的に参加し、自分の体験をふまえ、全国盲ろう者へさまざまな支援を行なっている。そんな福島氏の活動は、日本だけでなく、2001年の「世界盲ろう者連盟」設立と同時にアジア地域代表委員となり、「韓国盲ろう者自立と支援の会の設立にも尽力。2003年の「米タイム」誌には松井秀喜、坂本龍らとともに、「アジアのヒーロー」としてとりあげられた。

「生きるって人とつながることだよ」と言う福島氏。自ら先頭に立って、障害者の進む道を切り開いてきた福島氏だからこそ、そこには説得力がある。「障害者が社会とつながろうとする」ことが、障害者に生きる意味を与え、そんな障害者が生活しやすい社会を作りあげることが大切」と日々研究と活動を続けている本物の先駆者である。

福島氏が研究するバリアフリーな社会とは、障害者が社会とつながることを邪魔する外的障害「バリア」のない社会。福島氏が目指し歩み続ける「バリアフリーな社会」がこれからの日本が目指すべき社会だと言っても過言ではないだろう。



■福島氏が執筆した書籍



■指点字



■ヘレン・ケラーの生家(米国アラバマ州)で手動式のポンプ井戸に触れる福島氏

Photo:Koki Sato



Photo:Koki Sato

ふくしま さとし
福島 智 Satoshi Fukushima

東京大学先端科学技術研究センター 教授

Professor of Research Center for Advanced Science and Technology, The University of Tokyo

1962年兵庫県出身。3歳で右目を、9歳で左目を失明。18歳の時、聴力も失い全盲ろう者となる。1983年に東京都立大学(現・首都大学東京)に合格。全盲ろう者として日本初の大学生となる。1996年12月から金沢大学教育学部助教授として勤務後、2001年4月から東京大学先端科学技術研究センターの助教授として勤務。2008年には東京大学から博士号を授与され、現在は教授として東京大学先端科学技術研究センターのバリアフリー分野の担当教員を務める。全国盲ろう者協会理事。

推薦者

阪田 雅裕 社会福祉法人全国盲ろう者協会 理事長

教育者部門
Teacher/Academic